

2020

推奨花栽培マニュアル(概要)



STEP① 定植 (プランター等へ植え替え)

準備するもの

プランター, 草花用培土, ポット苗

プランターと土の準備

プランターの容積の4割程度の高さまで軽く土を入れ, 平らにしておきます。

苗の抜き取り

苗を痛めないようにポリポットを逆さにして抜き取ります。



プランターへの植え付け(定植)

プランターに3~5株程度をバランス良く配置します。プランターの縁から2~3cm程度低くなるように苗の高さを調整しながら株の根元の周りに土を入れていきます。苗の土と同じ高さまでプランターに土を入れて, 最後に苗がふらつかないように軽く押さえて固定します。植え付けが終わったら, 水をたっぷり与えます。



STEP② 管理

プランターの置き場所

日当たりと風通しのよい場所で管理します。真夏の暑さで花が弱ってしまう場合は, 建物の東側など午前中に日が当たり, 午後には日陰になるような場所で管理しましょう。



水やり

土の表面が乾いたら, 水をたっぷり与えます。

夏の暑い時期は, 朝と夕方の2回水やりをします。日中の水やりは, 草花が蒸れるので避けましょう。プランターや鉢植えの場合は, 水切れしやすいので注意しましょう。また, ホース内に残っている温水をかけないようにしましょう。アスファルトの熱は, 根を弱らせる原因になるので, すのこ等を敷いて風通しをよくしてあげましょう。

肥料

定期的に肥料を与えます。定植後の施肥は, 1週間から10日後に, 緩効性肥料(IB化成等)を1プランターに15粒程度追肥します。

<株の管理で、高さを抑え、こんもりとボリュームのある形や開花期間を長くできます>

摘芯(ピンチ)

本葉が7~8枚出始めた頃、先端の芽を摘み取ります。次の芽が出たら、同じようにして形を整えます。

摘心することで分枝が促進され、花数も葉の数も増えてボリューム感のある株に仕立てることができます。

切り戻し

花が少なくなってきたり、形が乱れ始めてきたら切り戻しのタイミングです。

株の半分ぐらいの高さで葉や芽が残るようにハサミで切り戻しをすることで、しばらくすると新芽が伸び、再び開花します。

花がら摘み

咲き終わった花は、花茎の付け根で摘み取ることで、病気の発生を減らしたり、新しいつぼみの発生を促すことにつながります。手で摘みにくい場合は、ハサミで切り取ります。この時、痛んだ葉や枯葉も同時に取り除きましょう。



花の種類別・注意点

マリーゴールド

土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。(夏場は毎日朝のうちに)

終わった花穂の摘み取りはこまめに行いましょう。本葉が10枚程度になったら新芽の部分を摘芯すると、バランスの良い姿になります。生育が良いので、切り戻しや古い枝を取り除き、繁茂しすぎないようにします。

ニチニチソウ

日当たりのよい場所で育てます。乾燥に非常に強い反面、多湿に弱いので、土の表面が乾いてから水をたっぷりと与えるようにします。

成育中は1週間に1回程度で液体肥料を与えます。本葉が8~10枚程度になったら新芽の部分を摘芯すると、脇芽が出て茎の数が増え、バランスの良い姿になります。生育が良いので、切り戻しや古い枝を取り除く作業などで、繁茂しすぎないようにします。

咲き終わった花穂はこまめに取り除くと、見た目にもきれいで、病気の発生も抑えられます。

センニチコウ

暑さや乾燥に強く、日当たりと水はけのよい場所で育てます。多湿に弱いので、乾燥気味に管理し、土の表面が乾いたら水をたっぷりと与えるようにします。根付いたら、追肥を行います。

生育が良いので、こまめに切り戻しを行い、繁茂しすぎないようにします。枯れた葉や花穂はこまめに取り除くと、見た目にもきれいで、病気の発生も抑えられます。

サルビア

土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。

肥料は、10日に1回程度、液体肥料や緩効性肥料を与えます。真夏の高温期は生育が衰え、花が付きにくくなるので、切り戻しを行った後に肥料を与え、草勢を回復させて開花を促します。

終わった花穂の摘み取りは適宜行います。

コリウス

半日陰で、風通しのよい場所を好みます。乾燥には弱いので、水切れさせないよう注意が必要です。株が大きくなるにつれ、吸水力が強くなるので、しっかり水やりをします。特に、真夏は朝夕しっかりとあげます。

真夏の強光に長時間当たると葉が色あせ、美しさが失われます。葉が10枚程度に育つ頃には、午後の直射日光が当たらないようにします。

ジニア

開花期間が長いので、定植後は、肥料が不足しないよう、月に一度ほど追肥を与えましょう。土の表面が乾いたら、朝と夕方の2回、水をたっぷり与えます。

枯れた葉や咲き終わった花は取り除きましょう。伸びすぎた場合は、切り戻しを行いましょう。

ポーチュラカ

乾燥気味の環境に向いているので、水をやりすぎないようにします。

日当たりと風通しのよい場所で管理し、緩効性肥料を1ヶ月に1回、1株あたり2~4粒与えます。(肥料分が多すぎると花が付きません。)

脇芽を出してボリュームのある株にするために、適度に摘心を行います。

その際、再び花が咲くまで時間がかかるので、咲かせたい時期の約1ヶ月前には切り終わるようにします。

問合せ先

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会実行委員会事務局
(鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局 総務企画課)
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
電話 099-286-2906
FAX 099-286-5553
E-mail kokutai-kenmin@pref.kagoshima.lg.jp

R1.6作成

花育てガイド

